

# 部活動地域展開

かたやなぎクラブについて

# 1 さいたま市教育委員会の動き

## 『学校部活動』から『地域クラブ活動』へ



さいたま市 PR キャラクター

### ～地域とともにつくる 部活動の新しいカタチ～

R7.10月発行

vol.1

令和4年12月にスポーツ庁および文化庁から部活動改革ガイドラインが公表され、中学校の部活動改革に向けた取組が全国で始まっています。

#### 【部活動改革の必要性】

- ・ 少子化により、学校部活動を現在と同じ体制で運営することが難しくなっており、学校や地域によっては存続が厳しい状況である
- ・ 学校の働き方改革が進む中、教師が顧問を務めるこれまでの指導体制を継続することは、より一層厳しくなる



(参考) スポーツ庁

さいたま市では、国の動向も踏まえ、本市独自の部活動の新しいカタチについて、令和5年度からモデル校で実証検証するとともに、「さいたま市地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備研究協議会」を設置し、様々な検討・取組を行っています。

※さいたま市地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備研究協議会の主な委員：学校関係者、地域・保護者の代表、スポーツ団体等



## さいたま市はなぜ部活動の新しいカタチについて検証をすすめているの？

- ・子どもたちが、地域の中で自分の興味に応じてスポーツや文化活動を楽しめる環境を整えるため
- ・生涯スポーツ・文化活動の視点から、多世代が気軽に活動できる持続可能な環境を整えるため



## 今までと何が変わるの？

【1週間の活動イメージ】

※ 土日はどちらか1日活動

	月	火	水	木	金	土	日
現在→	部活動	部活動	休	部活動	部活動	部活動	休
今後→	部活動	部活動	休	部活動	部活動	地域クラブ活動	休

まずは、休日から地域クラブ活動を目指します！

さいたま市は、まずは、休日の地域クラブ活動に着手することを目指しています。



## 「学校部活動」と「地域クラブ活動」って何が違うの？

学校部活動		地域クラブ活動
学校	主体	地域
学校施設	場所	学校施設の利用が中心※
教職員、部活動指導員 (部活動サポーター)	指導者	兼業が認められた教職員 地域の指導者 等

※ 将来的には、多様な場所で活動することを想定

現在、ここまでの段階には至ってありませんが、さいたま市としては、このような方向性を目指しています。

## 2 片柳中学校としての取組

市教育委員会から部活動地域展開モデル校として指定  
○まちクラブ「かたやなぎクラブ」を中核とした  
『まちクラブ連携モデル』の推進

### 目的

- 生徒がやりたい部活動を継続できる環境づくり
- 生徒がより専門的指導を受けられる環境づくり
- 教員が指導したい部活動を継続できる環境づくり

片柳中部活動  
平日3～4日 2時間程度  
教員、部活動指導員、部活動サポーター

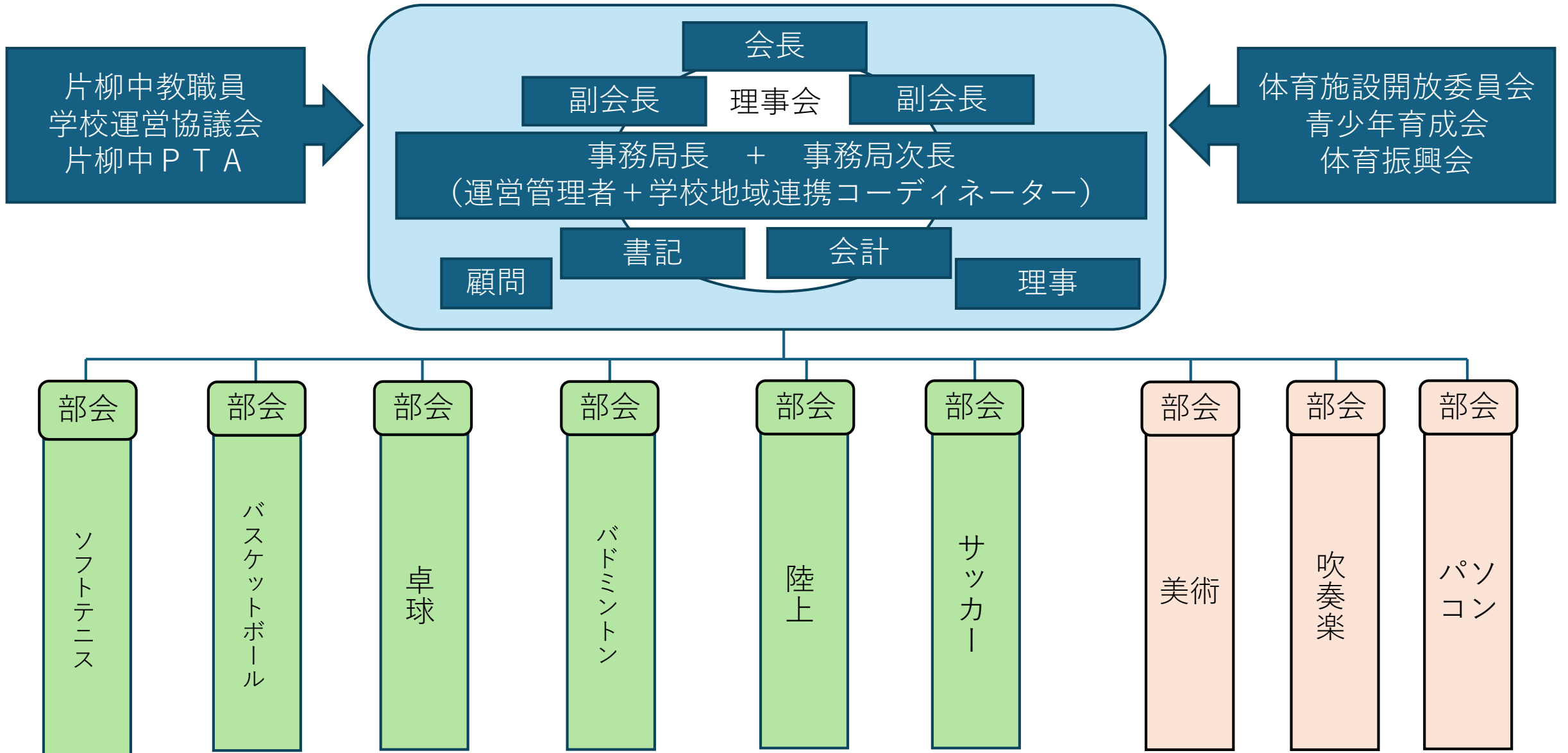


かたやなぎクラブ  
土日祝日 3時間程度  
統括団体からの派遣コーチ(教員、部活動指導員)

### 3 かたやなぎクラブとは

- 名称：かたやなぎクラブ（令和5年から活動開始）
- 協力：片柳中PTA、片柳小・中合同コミュニティ・スクール、  
片柳中学校体育施設開放委員会、片柳地区青少年育成会、  
片柳地区体育振興会
- 種目：陸上、テニス、バスケット、卓球、バドミントン、サッカー、  
吹奏楽、美術、パソコン
- 活動費：運動部500円（中体連加盟金200円含む）  
文化部300円  
指導費は市教委負担  
その他、各部の実態に応じて部費を徴収しての対応
- 指導者：教員は希望者のみクラブの指導者として活動（兼職兼業願）  
統括団体からの派遣コーチ  
地域の方（競技経験者、競技指導資格保有者、卒業生等）
- 活動場所：片柳中校庭、体育館、武道場、地域施設等

# 4 かたやなぎクラブ組織図



# 5 部活動及びクラブの現状と課題

教員、保護者、生徒のマインドチェンジが必要  
×やらされる部活 ×やってもらって当たり前

- 生徒がやりたい部活動を継続できる  
環境づくり
- 生徒が専門的指導を受けることができる  
環境づくり
- 教員が指導したい部活動を継続できる  
環境づくり

## 【課題】

- 生徒数減少に伴う部活動自体の存続の問題
- 統括団体との手続き上の煩雑さに関する問題
- 平日、土日の指導者間の連携の問題 など

